

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈小・体育〉

特別研修員 教科名 体育 岩崎 雄一（小学校教諭）

単元名 『ボール運動 ネット型「ソフトバレーボール」』（第5学年） 全7時間計画  
単元のねらい

仲間の考えや取組を認めながら、ボール操作の技能を向上させ、ラリーをつないでネット型ゲームの楽しさを味わうことができるようにする。

## 単元構想

つかむ過程ではネット型の運動についての動画を見ることで、ネット型ゲームの楽しさを感じさせながら、単元全体の見通しをもたせるとともに、試しのゲームを行うことで、ソフトバレーボールに慣れさせます。追究する過程では、パスの技能の向上を目指すとともに、3段攻撃を行う上での効果的なキャッチを活用する場面を考えさせながら活動を行い、判断力を養っていきます。まとめる過程では、ソフトバレーボール大会を通して、技能の向上を実感させたり、仲間と協力することの大切さを再認識したりできるように構成しています。

過程	主な学習活動	ソフトバレーボールの授業の進め方の確認
つかむ(1)	<p><b>1. 単元の見通しをもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ソフトバレーボールに必要な動きを確認する。</li> <li>○ボールに慣れるために、アンダーハンドパスやオーバーハンドパスを行ったりする。</li> <li>○試しのゲームを行い、感覚をつかむ。</li> </ul> <div data-bbox="145 1039 644 1151" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>単元の課題 チームでボールをつないで、ソフトバレーボールのゲームをしよう。</p> </div>	<p>単元全体の学習の進め方や授業の約束などを学習カードで確認し、ソフトバレーボールの動画を見て、どんな動きがあるかについて確認することで、学習の見通しをもたせ、やってみたいという意欲を高める。</p> <p><b>動きのポイントの視覚化</b></p> <p>ポイントを示した図を掲示しておくことで、オーバーハンドパスやアンダーハンドパスのポイントを意識して活動に取り組めるようにする。</p>
追究する(5)	<p><b>2. ソフトバレーボールに必要な技能を身に付ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○はじく動作（アンダーハンドパスとオーバーハンドパス）だけを使ってパスをつないでゲームをすることで、素早くボールの落下点に入れるようにする。</li> <li>○1回目にキャッチをする三回返球ゲーム（キャッチ→はじく→アタック）と2回目にキャッチをする三回返球ゲーム（はじく→キャッチ→アタック）を行い、それぞれの利点について考える。</li> <li>○メインゲームの間の作戦タイムでは、ホワイトボードとマグネットを使って、前半のゲームを振り返って反省し、後半のゲームに生かす作戦を立てる。</li> </ul>	<p><b>互いにアドバイスし合う様々なタスクゲーム</b></p> <p>兄弟チームで様々なタスクゲームを行わせることで、互いのよいところや改善した方がよいところをアドバイスし合わせ、技能の向上につなげる。</p> <p><b>作戦ボードを使った話し合い（メインゲーム）</b></p> <p>1回目にキャッチするパターンと2回目にキャッチをするパターンをそれぞれ体験させることで、それぞれどんな利点があるか、作戦ボードを用いて視点を絞って話し合うようにさせる。</p>
まとめる(1)	<p><b>3. 単元の学びを振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のまとめとして、本時まで習得したアンダーハンドパスやオーバーハンドパス、アタックなどの技能を用いたり、チーム内で励ましの声を掛け合ったりしながら、ゲームを行う。</li> <li>○各チームで学習の成果について話し合い、クラス全体で交流し、今後につながる可能性があるか話し合う。</li> </ul>	<p><b>作戦タイムを取り入れた大会</b></p> <p>ゲームとゲームの合間に作戦タイムを設定し、試合を振り返らせることで、作戦を練り直したり、フォーメーションの確認をしたりするなど対話的な学びの時間を確保する。</p> <p><b>学習の成果を生かす振り返り</b></p> <p>単元全体を通しての振り返りを行うことで、技能の向上やチームとしての高まりなどを実感させる。さらに、クラス全体で共有させることで、今後の学習でも生かせることに気付かせる。</p>



<パスのポイントの掲示>



<兄弟チームによるタスクゲーム>



<作戦ボードを使った話し合い>



<ソフトバレーボール大会>



<チーム内での振り返り>

指導例：『ソフトバレーボール』（第5学年 第1時）

1 単元の学習内容や授業の進め方をつかむ。

○ソフトバレーボールの映像を見ながら、大まかなルールや動き方、パスやアタックなどの技能について知る。

○ソフトバレーボールに必要な動きを確認する。

T：ソフトバレーボールにはどんな動きがあったかな？

S：下からはじくアンダーハンドパスや上からはじくオーバーハンドパスがあった。

S：相手のコートに返すアタックがあった。

S：ゲームを始めるときにサーブを打っていたよ。

めあて ソフトバレーボールのルールを知り、ボールに慣れよう。

2 準備運動と本単元につながる予備的な運動を行う。(活動1)

○ボールに慣れるために、一人でボールをはじく活動を行う。

T：アンダーハンドパスやオーバーハンドパスを一人でやってみよう。

S：アンダーハンドパスは、ボールの中心をはじいて、膝を使うとうまくいくな。

S：オーバーハンドパスは、真上にはじくのが難しいな。

○ボールに慣れるために、二人一組で下から投げるキャッチボールをしたり、アンダーハンドパスやオーバーハンドパスを行ったりする。

T：二人一組のパスをやってみて、どんなことに気付きましたか。

S：アンダーハンドパスは狙ったところに返す力加減にコツがあるな。



<それぞれのパスのポイントを掲示>



<一人でボールをはじく様子>



<二人一組でのパス練習>

3 試しのゲームを行い、ソフトバレーボールのゲームをする。(活動2)

○バドミントンのコートを利用し、キャッチ有りバレーを行うことで、ボールに慣れさせる。

T：試しのゲームを行って、どんなことを思った。

S：キャッチをすればパスをうまくつなぐことができるけど、動きがあまりないな。

S：はじく動きをいれるとなかなかつながらないな。

S：もっとパスをうまくつなげて、アタックまで決めてみたいな。



<試しのゲームの様子>

4 学習したことを振り返る。

○学習カードに、本時の感想や気付いたこと、チームの目標などを記入し、何名かの児童に発表させ全体で共有する。

☆ソフトバレーボールの動きやゲームの流れがだいたい分かった。

☆パスがもっと上手にできるようになると、ゲームが楽しくなりそうだな。

☆ボールは柔らかくて怖くないけど、ボールをはじく力加減が難しいな。

指導のポイント

ソフトバレーボールの授業の進め方の確認

○単元全体の学習の進め方や授業の約束などを学習カードで確認する。また、ソフトバレーボールに興味をもたせるために動画を見せ、どんな動きがあるかについて確認することで、今後の学習の見通しをもたせる。

動きのポイントの視覚化

○ポイントを示した図を掲示しておくことで、オーバーハンドパスやアンダーハンドパスのポイントを意識して活動に取り組みせつつ、運動への意欲を高める。

ボール慣れのドリル

○一人でボールをはじくことで、たくさんボールに触れる機会を増やし、ボールに慣れさせる。また、二人一組のパス練習を行わせることで、相手を取りやすいボールを返すことを意識させる。

活動意欲を引き出す試しのゲーム

○初めてのゲームなので、ボールがつながり、ゲームの流れがつかめるキャッチ有りバレーを行い、ソフトバレーボールのゲーム感覚とこれからの活動の意欲をもたせる。

今後の学習に向けて

○本時の学習を振り返り、これからソフトバレーボールを充実した活動にしていくために個々に必要な技能の確認をするだけでなく、チームとしてどのように活動に取り組んでいきたいか共有させる。

指導例：『ソフトバレーボール』（第5学年 第5時）

1 準備運動・ドリルゲームを行う。

○ドリルゲームとして、キャッチ&パス・円陣パス・アタックチャレンジをチームごとに行う。

2 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を確認し、本時のめあてを確認する。

T：前回のゲームを振り返って、どうですか？

S：オーバーハンドパスやアンダーハンドパスだけで繋ぐのは難しい。

S：キャッチを使うと、パスがうまく繋がってゲームができそう。

めあて キャッチを1回だけ使って、相手コートに返そう

3 兄弟チームで3回返球ゲームを行う。（活動1）

○1回目にキャッチをする三回返球ゲーム、2回目にキャッチをする3回返球ゲームをする。

T：1回目のキャッチと2回目のキャッチではどんな違いがありましたか？

S：1回目のキャッチだと、2回目のトスにうまく繋がられるな。

S：2回目のキャッチだとアタックが打ちやすいけど、1回目で味方が取りやすいパスをする必要があるな。

S：アタックを打つためには、2回目キャッチの方がよさそうだな。

S：相手のアタックをしっかりはじくには、練習が必要だな。



<兄弟チームでの三回返球ゲーム>



<話し合いの様子>

4 3回返球ゲームの対戦を行う。（活動2）

T：作戦ボードを使って、前半の反省をして後半につなげよう。

S：1回目にキャッチしたら、次にはじく人はネットのところまで移動しよう。

S：○○さんがキャッチする作戦だとボールの飛んできた場所によってはうまくいかないね。

S：2回目にキャッチする作戦だったけど、はじくことが難しいボールが来たら、みんなで声を掛けてキャッチに変えよう。



<作戦タイムの様子>

5 学習したことを振り返る。

○本時の学習の成果や反省、分かったことをチームで話し合い、全体で共有し、次時の活動に生かす。

☆1回目にはじくと、アタックまでうまくつながられたので、もっとアンダーハンドパスを上手にできるようにしたい。

☆ボールが飛んできた場所によって、1回目か2回目かを判断してキャッチすることが大事だな。

T：次時は、もっとスムーズに3回で返球できるように、ボールを持っていない人の動きも考えてみよう。



<振り返りの様子>

指導のポイント

めあての設定

○前時までの学習内容を振り返り、3回で相手コートに返すために何が必要かを考えさせることで、本時のめあてを設定する。

互いにアドバイスし合う  
様々なタスクゲーム

○1回目キャッチで返球をするパターンと2回目キャッチで返球をするパターンを分けて経験させることで、それぞれの利点について考えさせる。また、ゲーム形式の中で、どの場面でキャッチすることが効果的なのかを考えさせる。兄弟チームで行い、互いに気付いたことを伝えられるようにする。

作戦ボードを使った話し合い

○前半で上手くいかなかったことに修正を加え、後半に生かせるようにするために、作戦ボードを用いて、自分や仲間のポジショニングや次にどう動くのかを話し合いながら確認できるようにする。

振り返りの視点

○3回返球ゲームの対戦を通して、「1回目のキャッチと2回目のキャッチとの違い」や「ゲームの中で効果的だった場面」について振り返りを行い、次時につなげさせる。

指導例：『ソフトバレーボール』（第5学年 第7時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を振り返り、今までの学習の成果を出せる大会にすることを確認する。

T：どんなソフトバレーボール大会にしたいですか？

S：パスを上手につないで、最後にアタックを決めたい。

S：みんなで協力して作戦を立てて、ボールをつないでいこう。

めあて 今まで学習したことを生かしたソフトバレーボール大会にしよう。

2 準備運動と3回返球ゲームを行う。(活動1)

○準備運動はチームごとに行い、3回返球ゲームは兄弟チームで行う。

T：3回返球ゲームをする中で、気付いたことを言い合おう。

S：声を掛け合うと、パスがつながりやすいね。

S：素早くボールの落下点に入れているよ。

S：2回目にボールに触る人は、もっとネットに近いほうがいいよ。

3 ソフトバレーボール大会を行う。(活動2)

○大会をスムーズに実施するために、ルール・試合順・ゲームの進め方の確認をする。

T：今までの練習の成果や兄弟チームからのアドバイスをもちに、チームで協力してゲームを行おう。

S：試合と試合の合間の作戦タイムを大事にしよう。



<コートを使い方と試合進行表>

S：失敗しても責めずに、励まし合って楽しく活動しよう。

S：守りの形は後ろを二人にして、攻撃するときはネットまで移動しよう。



<大会の様子>



<試合と試合の間の作戦タイム>

4 学習したことを振り返る。

○各チームで学習の成果と今後の学習について話し合い、その後クラス全体で意見交流する。

☆キャッチを効果的に活用して、3段攻撃でアタックを決めることができた時はとてもうれしかった。

☆自分では気付かなかったことを友達が教えてくれたから、技能が上達したし、ゲームの中でも活用することができた。

☆ボールを持っていないときの動きが、すごく重要だということに気付いたので、他の運動でも生かしたい。

☆役割分担や励まし合いの声掛けができたから、楽しく活動できた。



<振り返りの様子>

指導のポイント

学習の成果を発揮するめあて

○本時が最後のソフトバレーボールの授業となるので、今までの学習で身に付けたことを発揮するとともにチームとしてのまとまりを大切にすることを確認する。

兄弟チームとの交流

○兄弟チームとタスクゲームをさせ、互いを客観的に見合い、アドバイスをし合えるようにすることで、チーム力の向上につなげることができるようになる。

作戦タイムを設定した大会

○作戦タイムの時間を生み出すために、各チームに試合進行表を配付し、スムーズな移動ができるような工夫をする。

○ゲームとゲームの合間に作戦タイムを設けることで、前回の試合を振り返り、作戦を練り直したり、フォーメーションの確認をしたりするなど対話的な学びの時間を確保する。

学習の成果と次の運動に生かす振り返り

○「何を学ぶことができたのか」「今回学んだことで次に生かせることは何か」という視点で、振り返りをさせることで、他の運動にもつながることがあることに気付けるようにする。

# 体育科学習指導案

令和元年6月 第5学年 指導者 岩崎 雄一

## I 単元名(題材名) ボール運動 ネット型 「ソフトバレーボール」

## II 学習指導要領上の位置付け

高学年のボール運動は、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

低学年と中学年の学習を踏まえ、高学年では、集団対集団の攻防によって競争する楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにし、中学校の球技の学習につなげていくことが求められる。

また、運動を楽しく行うために、自己やチームの課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることなどができるようにすることが大切である。

## III 目 標

ア 個人やチームによる攻撃と守備によって、ボール操作の技能を向上させ、ラリーをつないで、簡易化されたゲームをすることができる。(知識及び技能)

イ ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。(思考力、判断力、表現力等)

ウ 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

## IV 指導計画 ※別紙参照

## V 本時の展開（1／7）

1 ねらい 簡単なゲームを行うことを通して、ボールに慣れ、ネット型の運動についての学習を知り、単元全体の見通しをもてるようにする。

### 2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<b>1 単元の学習内容や授業の進め方をつかむ。（10分）</b>			
○ソフトバレーボールの映像を見せながら、大まかなルールや動き方、アンダーハンドパスやアタックなどの技能について説明する。			
○チームは兄弟チーム（兄4人、弟3人の計7人編成）とし、用具の準備や準備運動を一緒に行ったり、ドリルやタスクを一緒に行う中でアドバイスをし合ったりすることを確認する。			
○学習カードを見ながら、単元の学習内容や進め方をつかませ、見通しをもつよう促す。			
めあて ソフトバレーボールのルールを知り、ボールに慣れよう。			
<b>2 準備運動と本単元につながる予備的な運動を行う。（活動1）（15分）</b>			
○用具の準備は安全面に気を付けて協力して準備するよう促す。			
○チームとしての意欲を高めるために、準備運動はチームごとに元気よく行うよう促す。			
○一人でボールをはじく活動を行うときは、全身を使って行うよう助言する。			
○二人一組で、下から投げるキャッチボールをしたり、ボールをはじく（アンダーハンドパスやオーバーハンドパスにつながる動き）を行ったりしながら回数を数えるよう助言する。			
<b>3 試しのゲームを行い、ソフトバレーボールのゲームをする。（活動2）（15分）</b>			
○バドミントンのコートを利用し、キャッチ有りバレーを行うことで、ボールに慣れさせる。			
○全員がボールに触れられるようにチームのみんながキャッチし、最後は相手コートにアタックしているチームを称賛する。			
○チーム内での称賛の声や励ましの声を大切にし、みんなが楽しんで活動できるよう助言する。			
単元の課題 チームでボールをつないで、ソフトバレーボールのゲームをしよう。			
友達と協力してパス交換を行い、進んでボールに慣れようとしている。〈観察(1)〉			
<b>4 学習したことを振り返る。（5分）</b>			
○学習カードに、本時の感想や気付いたことなどを記入させ、全体で共有することで、次時に生かせるよう促す。			
☆ソフトバレーボールのだいたいのやり方やルールが分かった。			
☆ボールは柔らかくて怖くないけど、ボールをはじく力加減が難しい。			

## V 本時の展開（5／7）

1 ねらい どの場面でキャッチを使うと効果的か話し合うことを通して、パスをつないでゲームができるようにする。

### 2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 準備運動とドリル（キャッチボール・パス練習等）を行う。（10分）	○チームとしての意欲を高めるために、準備運動はチームごとに元気よく行うよう促す。 ○2人一組、3人一組、チーム全員で行う際には、声を掛け合い活動したり、声に出して回数を数えたりするよう促す。		
2 本時のめあてをつかむ。（5分）	○前時までの学習を確認し、本時のめあてを確認するよう促す。		
めあて キャッチを1回だけ使って、相手コートに返そう。			
3 兄弟チームで3回返球ゲームを行う。（活動1）（13分）	○パスをつなげる大切さに目を向けることができるようにするために、3回目で相手コートに返球できた回数について、声に出して数えることを確認する。また、相手コートに返球する前に1度だけボールをキャッチすることができることを確認する。 ○1回目にキャッチするパターンと2回目にキャッチをするパターンをそれぞれ体験させ、それぞれどんな利点があるか、視点を絞って話し合うよう促す。		
4 3回返球ゲームの対戦を行う。（活動2）（12分）	○チーム内での称賛の声や励ましの声を大切に、チーム全員が楽しんで活動できるよう声を掛けるよう促す。 ○前半戦（4分）の後に、作戦タイム（2分）を設け、後半戦（4分）につなげられるように、キャッチをする場面や状況が適していたかを中心に話し合うように助言する。		
キャッチする場面や状況が適していたかをチームで話し合い、ゲームに生かしている。 〈観察、学習カード(2)〉			
5 学習したことを振り返る。（5分）	○本時の学習の成果や課題、分かったことをチームで話し合い、全体で共有し、次時の活動に生かせるようにする。 ☆1回目にはじくと、アタックまでうまくつなげられたので、もっとアンダーハンドパスを上手にできるようにしたい。 ☆ボールが飛んできた場所によって、1回目か2回目かを判断してキャッチすることが大事な。		

## V 本時の展開（7/7）

1 ねらい 今までの学習したことを生かして、ソフトバレーボール大会を行うことで、技能の向上が実感できるようにする。

### 2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（5分）	○前時までの学習を振り返り、今までの練習の成果を出せる大会にすることを確認する。		
	めあて 今まで学習したことを生かしたソフトバレーボール大会にしよう。		
2 準備運動と3回返球ゲームを行う。（活動1）（5分）	○チームとしての意欲を高めるために、準備運動はチームごとに元気よく行うよう促す。また、練習や試合中にも声を掛け合うことを確認する。		
	○兄弟チームでお互いにアドバイスし合い、ソフトバレーボール大会に向けての作戦に生かすことを助言する。		
3 ソフトバレーボール大会を行う。（活動2）（30分）	○大会を円滑に進めるために、ルールを確認したり、試合の順序や試合中のローテーションを確認したりする。		
	○本時まで習得したアンダーハンドパスやオーバーハンドパス、アタックなどの技能を用いたり、チーム内で励ましの声を掛け合ったりしながら、ゲームを進めるよう助言する。		
	○試合後は、振り返りの時間を設け、次の試合に生かすように促す。		
	今までに身に付けたパスやキャッチを効果的に使って、ゲームをすることができる。 〈観察、学習カード(3)〉		
4 学習したことを振り返る。（5分）	○各チームで学習の成果について話し合い、クラス全体で交流し、今後の運動につなげられたことがあるか問い掛ける。		
	☆キャッチを効果的に活用して、3段攻撃でアタックを決めることができた時は、とてもうれしかった。		
	☆自分では気付かなかったことを友達が教えてくれたから、技能が上達したし、ゲームの中でも活用することができた。		
	☆ボールを持っていないときの動きが、すごく重要だということに気付けたので、他の運動でも生かしたい。		
	☆役割分担や励まし合いの声掛けができたから、楽しく活動できた。		

指導計画 体育科 第5学年 単元(題材)名 ボール運動 ネット型「ソフトバレーボール」(全7時間計画)

目標	<p>ア 個人やチームによる攻撃と守備によって、ボール操作の技能を向上させ、ラリーをつないで、簡易化されたゲームをすることができる。(知識及び技能)</p> <p>イ ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>ウ 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。(学びに向かう力、人間性等)</p>			
評価規準	<p>(1) 練習やゲームに進んで取り組み、友達と励まし合い、ルールを守ってゲームをしている。</p> <p>(2) 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり、考えたことを伝えたりしている。</p> <p>(3) ボールの落下地点を予測し、素早く移動し、ボールを操作することができる。</p>			
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価項目 〈方法(観点)〉
つかむ	1	<p>○簡単なゲームを行い、ボールに慣れることで、ネット型の運動についての学習を知り、単元全体の見通しをもてるようにする。</p> <p>ソフトバレーボールのルールを知り、ボールに慣れよう。</p>	<p>☆ソフトバレーボールのやり方やルールが分かった。ボールは柔らかくて怖くないけど、ボールをはじく力加減が難しいな。</p>	<p>◇友達と協力してパス交換を行い、進んでボールに慣れようとしている。〈観察(1)〉</p>
追究する	1	<p>○キャッチ有りバレーのゲームをすることで、ボールの落下点に素早く入る動きを身に付けるようにする。(キャッチ→キャッチ→アタック)</p> <p>素早くボールの落下点に入って、ボールをはじこう。</p>	<p>☆ボールをキャッチするときは、ボールの落下点に入るとキャッチしやすいな。</p> <p>☆味方へのパスは取りやすいところに投げるとつながるな。</p>	<p>◇ボールの落下地点に入ること意識しながら取り組んでいる。〈観察、学習カード(1)〉</p>
	1	<p>○はじく動作(アンダーハンドパスとオーバーハンドパス)だけを使ってパスをつないでゲームをすることで、素早くボールの落下点に入れるようにする。</p> <p>キャッチパスをつないで、最後にアタックして、相手のコートに返そう。</p>	<p>☆誰がボールに触るのか声を掛け合ったほうがいいな。</p> <p>☆もっと落下点に素早く動けるようにしたい。</p>	<p>◇ボールの落下点に入って、ボールをはじくことができる。〈観察、学習カード(3)〉</p>
	1	<p>○はじく動作(アンダーハンドパスとオーバーハンドパス)だけを使ってパスをつないでゲームをすることで、パスの技能を高める。</p> <p>アンダーハンドパスやオーバーハンドパスを上手にできるようにしよう。</p>	<p>☆ボールをはじくときは、ボールの落下点に入らないとうまくはじけないな。</p> <p>☆アンダーハンドパスは、体の正面で行わないと、狙った方向にいかないな。</p>	<p>◇ボールの落下点を予測し、アンダーハンドパスやオーバーハンドパスを体の正面で行うことができる。〈観察、学習カード(3)〉</p>
	1	<p>○どの場面でキャッチを使うと効果的か話し合い、パスをつないでゲームができるようにする。(例 はじく→キャッチ→アタック、キャッチ→はじく→アタック)</p> <p>キャッチを1回だけ使って、相手コートに返そう。</p>	<p>☆1回目にはじくと、アタックまでうまくつながれたので、もっとアンダーハンドパスを上手にできるようにしたい。</p> <p>☆ボールが飛んできた場所によって、1回目か2回目かを判断してキャッチすることが大事だな。</p>	<p>◇キャッチをする場面や状況をチームで話し合い、ゲームに生かしている。〈観察、学習カード(2)〉</p>
	1	<p>○3段攻撃を用いてゲームをすることができる。</p> <p>みんなで力を合わせて、3段攻撃を決めよう。</p>	<p>☆パスがつながって3段攻撃が決まるとうれしいね。</p> <p>☆キャッチは2回目になるとアタックが決まりやすくなるね。</p>	<p>◇状況に応じたアンダーハンドパスやオーバーハンドパスを使ってアタックまでつなげることができる。〈観察、学習カード(3)〉</p>
まとめる	1	<p>○今までの学習したことを生かして、ソフトバレーボール大会を行うことで、技能の向上が実感できるようにする。</p> <p>今までの学習したことを生かしたソフトバレーボール大会にしよう。</p>	<p>☆キャッチを効果的に活用して、3段攻撃でアタックを決めることができた時はとてもうれしかった。</p> <p>☆ボールを持っていないときの動きが、すごく重要だということに気付いたので、他の運動でも生かしたい。</p>	<p>◇今までに身に付けたパスやキャッチを効果的に使って、ゲームをすることができる。〈観察、学習カード(3)〉</p>